

ブルネイ・ダルサラーム国 母子病院 第一期新築工事



飛鳥建設株式会社国際支店 作業所長

大澤達雄

Tatsuo Osawa



建物外観 建物南面外観



ジャミアスリモスク
バンダーセリベガワン市内最大のモスク



市内眺望 病院最上階からの
バンダーセリベガワン市内眺望



世界で活躍する
日本の建設企業

ブルネイ・ダルサラーム国について

「永遠に平和なブルネイ」という意味の国名であるブルネイ・ダルサラーム国（以下「ブルネイ」）は、ボルネオ島北部に位置し、その周囲はマレーシアに取り囲まれています。このアジアの一小国であるブルネイで昨年、アセアン会議が開催され、日本のニュースや新聞でも同国に関する報道が多くあったことは記憶に新しいところだと思えます。

国土は、日本の三重県に相当する面積で、人口約四〇万人。一九八四年にイギリス連邦から独立した立憲君主国ですが、国王の権限は絶大であり実質的な絶対君主国とも言えます。石油・天然ガスの輸出を経済の最大の柱とし、GDPや国民の生活水準は高く、安定した経済状況にあります。また、ボルネオ国王は世界有数の富豪としても知られています。宗教的には敬虔なイスラム国家であり、国民の三分の二がイスラム教徒です。最近のイスラム教国の潮流かもしれませんが、同国もイスラム法の適用が厳しくなりつつあり、愛飲家、愛煙家の方には、だんだんと厳しい生活環境となってきました。

プロジェクトの紹介

当プロジェクトは、ブルネイの首都バンダー



山留掘削・基礎工事 後方に見えるのが既存施設

セリベガワンの中心部に位置し、ブルネイ最大の病院である国立サレハ王妃記念病院（通称RIPAS病院）の慢性的な病床不足の解消と、老朽化している既存医療施設のアップグレードを目的としており、この母子病院建設工事は、当該病院の一施設として、その敷地内に最新の設備と機能を配備する病院として計画されました。産婦人科と小児科を設置し、総ベッド数は三〇五床。二〇一五年初めの開業を予定しています。発注者の保健省は、第一期工事竣工後、隣接敷地に緊急病棟を建設する第二期計画も持っています。

工事概要

地上十階、地下二階（延床面積四五、一五三平方メートル）の建物は、市街地の小高い丘の上に建ち、最上階からはバンダーセリベガワン市内を一望することができます。工事は二〇一一年四月に着工し、二〇一四年十一月末引き渡し予定です。工事計画地は、すでに手狭になっている既存病院の敷地内にあつた一部建物や駐車場を解体し、またそれらに加えて、丘の斜面も切り開いて建築しています。狭小な敷地に加え、多くの入院患者を抱えた既存病棟に隣接した敷地での作業ということで、工事車両動線の規制や騒音・環境への配慮など、厳しい制限の中で行われた工事でした。

終わりに

多岐にわたる設計変更や追加工事があり、当初の契約工期から一年九カ月の工期延長となりましたが、この原稿が掲載される頃には無事引き渡しが完了していることと思えます。当工事は、ブルネイの中でも大型工事の一つであり、所管の保健大臣をはじめ多くの方々から常に注目された工事でした。工程管理、品質管理において、発注者から満足していただいていると自負しています。病院関係者並びに市民の皆さんにも喜んでいただけるように、工事の最後まで気を抜くことなくまとめ上げたいと思っています。